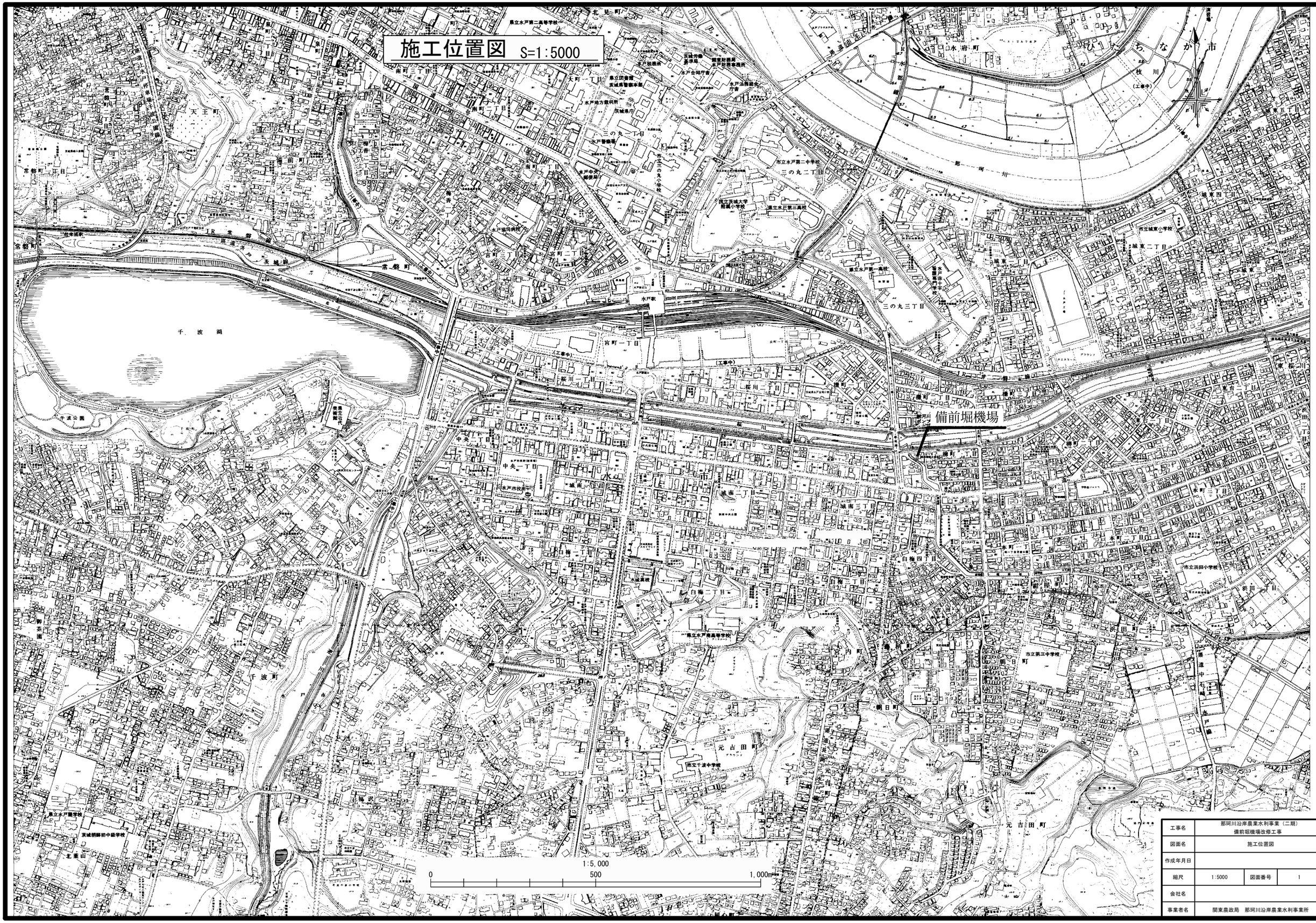
施工位置図 S=1:5000



工事名	那珂川沿岸農業水利事業（二期） 備前堀機場改修工事		
図面名	施工位置図		
作成年月日			
縮尺	1:5000	図面番号	1
会社名			
事業者名	関東農政局　那珂川沿岸農業水利事業所		

令和6年度 那珂川沿岸農業水利事業(二期)
備前堀機場改修工事　　設計図

令和　　年　　月(全　　枚)

仕 様 書

Ⅰ 工事概要

1．工事場所　茨城県水戸市柵町地内

2．建物概要　鉄筋コンクリート造平屋建て
　延床面積　217.042m2

3．工事種目　建屋改修工事

4．工事内容
　1．屋上防水
　2．外壁補修
　3．進入路等の改修
　　既存設備の改修（ポンプ設備）

5．工事範囲
※「3．工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

工事項目 ＼ 工事種目	建屋改修工事			
② 仮設工事	工事範囲全て			
③ 防水改修工事	図　示			
④ 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁	図　示			
⑤ 建具改修工事	図　示			
6　内装改修工事				
⑦ 塗装改修工事	図　示			
8　耐震改修範囲以外の躯体改修工事				
耐震改修工事				
9　環境配慮改修工事				

Ⅱ 建築改修工事仕様

1．共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下「改修標仕」という。）により、また、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下「標仕」という。）による。

2．特記仕様
（1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
（2）特記事項は、◐印のついたものを適用する。
　◐印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　◐印と◎印の付いた場合は、ともに適用する。
（3）特記事項に記載の［　．．］内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の（　．．）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（5）特記事項に記載の（別2-　．）は、標仕の「別図2　ボルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の該当項目を示す。
（6）G印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	① 適用基準等	◐建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　（令和４年版） ○工事写真の撮り方（改訂第2版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） ・建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成24年版） ・
	② 工事実績情報の登録	※適用する　[1.1.4]
	③ 品質計画等	・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。　[1.2.2] ※風速　V ＝$_0$(　32　) m/s（平12建告第1454号第2） ※地表面粗度区分　・Ⅰ　・ⅡＨ　○Ⅲ　・Ⅳ ・積雪区分　平12建告第1455号　別表（　　） ・
	4 電気保安技術者	※適用する　[1.3.3] 工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ・要　　・不要
	⑤ 施工条件	※現場説明書による。　[1.3.5] ・工事用車両の駐車場所　※図示　・ ・資機材置場　※図示　・ ・建設発生土仮置場　※図示　・ ・　※図示　・
	⑥ 発生材の処理等	※現場説明書による ・発注者に引渡しを要するもの　（・　・　　）　[1.3.8] ・特別管理産業廃棄物　（・　・　・　　）　[1.3.8] ・現場において再利用を図るもの　（　　）　[1.3.8] ・再資源化を図るもの　（　　）　[1.3.8] ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定：現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数　計（　　）箇所 採取箇所　※図示　・ ・第二次判定：専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析個数　計（　　）箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示　・
	⑦ 環境への配慮	化学物質を放散させる建築材料等　[1.4.1] 本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。 （1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （3）接着剤はフタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 （5）（1）、（3）及び（4）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 ／ 該当する材料 規制対象外：1 JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 2 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3 下記表示のあるJAS規格品 a．接着剤等不使用 b．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f．ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種：1 JIS及びJASのF☆☆☆規格品 2 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
	⑧ 材料の品質等	[1.4.2] 本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。 （1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること （3）安定的な供給が可能であること （4）法令等で定める許可、認可、認定、免許等を取得していること （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること （6）販売、保守等の営業体制が整えられていること なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会等）が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。
	⑨ 特別な材料の工法	改修標仕及び標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	⑩ 施工数量調査	調査範囲及び調査方法　※図示　[1.5.2] 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　※図示　・　[1.5.3]
	⑪ 技能士	適用工事種別 ／ 技能検定作業 防水改修工事：・アスファルト防水工事作業　・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業　・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ○左官作業　○内外装板金作業 外壁改修工事：○左官作業　・タイル張り作業　○建築塗装作業 建具改修工事：・ビル用サッシ工事作業　・ガラス工事作業 ・自動ドア施工工作業　○鋼製建具工事作業 内装改修工事：・プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業　・大工工事作業 ・鋼製下地工事作業　・左官作業　・タイル張り作業 塗装改修工事：○建築塗装作業 耐震改修工事：・鉄筋組立作業　・型枠工事作業　・コンクリート圧送工事作業 ・構造物鉄工作業　・とび作業 コンクリートブロック・ALCパネル工事：・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルシーパネル工事作業 石工事：・石張り作業 植栽工事：・造園工事作業　[1.6.2]
	⑫ 化学物質の濃度測定	[1.6.9] 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告する。 測定はパッシブ型採取機器により行う。 着工前の測定　・行う 測定対象室　・図示　・ 測定箇所数　・図示　・ 報告の様式等については、現場説明書による。
	⑬ 完成時の提出図書	・完成図　[1.8.1～3]　[表1.8.1] ・既存図面修正 ※作成する 提出部数　※各2部　・　部（A3版第二原図及び電子媒体（CD-R）） 種類　※改修標仕表1.8.1による。ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。 ※施工計画書　提出部数　※1部　・　部 ※施工図　提出部数　※1部　・　部 ・保全に関する資料　提出部数　※2部　・　部
	⑭ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑮ 設計ＧＬ	※図示　・
② 仮設工事	① 足場その他	内部足場　種別　※きゃたつ、足場板等　・単管根足場　[2.2.1] 外部足場　種別　○施工箇所面に枠組み足場を設ける　[2.2.1]　[表2.2.1] 防護シート　※設置する（養生シート　防炎1級）・設置しない 材料、搬去材等の運搬方法　・A種　◎B種　・C種　・D種　・E種　[2.2.1]　[表2.2.2]
	② 既存部分の養生	既存部分の養生　※ビニルシート等　・　[2.3.1] 既存家具等の養生　※ビニルシート等　・ 固定家具等の移動　※行わない　・行う（図示）
	3 仮設間仕切り	仮設間仕切り等の種別　[2.3.2]　[表2.3.1] 種別 ／ 下地 ／ 仕上材（厚さ　mm） ／ 充填材 ／ 塗装 ・A種 ／ ※軽量鉄骨 ／ ・合板（※9.0　・　） ／ 厚さ　mm ／ ※なし ・B種 ／ ・木下地 ／ ※せっこうボード（※9.5　・　） ／ ・片面 ※C種 ／ 単管下地 ／ 防炎シート 仮設扉 ／ ※木製扉 ／ ※合板張り程度　・ ／ ※なし ・鋼製扉 ／ ※片面フラッシュ程度　・ ／ ・あり
	4 監督職員事務所	※設ける　[2.4.1] ・構内に新設する（規模及び仕上げの程度は現場説明書による） ・既存建物内の一部を使用する ・設けない
	⑤ 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　○利用できる（※有償　・無償）
	⑥ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　○利用できる（※有償　・無償）
③ 防水改修工事	① 既存防水層の処理	既存保護層（平場）の撤去　○行う（範囲　○図示　・　）　[3.2.3] 既存防水層（平場）の撤去　○行う（範囲　○図示　・行わない　）　[3.2.4] 立上り部の防水層撤去　[表3.1.1] ○行う（・POS(機械)　・POSI(機械)　・W4S　・W4SI ・S4S(機械)　・S4SI(機械)） 露出防水層表面の仕上げ塗装除去　[3.2.6] ・行う（・W4AS　・W4ASI　・W4C　・W4DI　・L4X） 改修用ドレン ○設ける（・POAS　・POASI　・POD　・PODI　・POS　・POSI　・POX）
	② 既存下地の補修	アスファルト補修の材料　※JIS K 2207による3種　・　[3.2.2] 既存下地の補修箇所、範囲、数量等　※図示　・　既設高圧洗浄『10～15Mps』　[3.2.6]
	3 アスファルト防水	[3.3.2、3]　[表3.1.1]　[表3.3.3～10] 防水改修工法の種類 ／ 新規防水層の種類 ／ 施工箇所 保護防水：・P1B工法 ／ ・B-1　※B-2　・B-3 ・P1BI工法　・T1BI工法 ／ ・BI-1　※BI-2　・BI-3 ・P2AI工法 ／ ・AI-1　※AI-2　・AI-3 ・P2A工法 ／ ・A-1　※A-2　・A-3 露出防水：・W4C工法 ／ ・C-1　※C-2　・C-3　・C-4 ・W3D工法　・P0D工法 ／ ・D-1　※D-2　・D-3　・D-4 ・W4D工法 ・P0DI工法　・W3DI工法 ／ ・DI-1 G　※DI-2 G ・W4DI工法 屋内防水：・P1E工法　・P2E工法 ／ ・E－1　※E－2（保護層は図示による） アスファルトの種類　※3種　・4種　[3.2.2]　[3.3.2] W3D、P0D、P0DI、W3DI及びW4DI工法の脱気装置　※設ける　・設けない　[3.3.3] 断熱工法の断熱材　[3.3.2] ※押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き G 厚さ（mm）　※25　・ ・　厚さ（mm）　・
		立上り部の保護材　[3.3.2] ・乾式保護材　※押出成形セメント板（厚さ15mm）　・ ・れんが　※JIS R 1250によるもの ・市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分） ・コンクリート ○樹脂モルタル　・樹脂モルタルにて成形補修
	4 改質アスファルトシート防水	[3.4.2、3]　[表3.1.1]　[表3.4.1～3] 防水改修工法の種類 ／ 新規防水層の種類 ／ 厚さ（mm） ／ 施工箇所 ・W4AS工法 ・W3AS工法 ・P0AS工法 ・AS-T1　・AS-T2　・AS-J2 ・AS-T3　・AS-T4　・AS-J1　・AS-J2 ・機械的固定工法 ・W3ASI工法 ・W4ASI工法 ・P0ASI工法 ・ASI-T1　・ASI-J1 W3ASI、W4ASI及びP0ASI工法の防湿層　・設ける　・設けない　[表3.4.3] W3AS、P0AS、W3ASI、W4ASI及びP0ASIの脱気装置　[3.4.3] ※設けない　・設ける
	5 合成高分子系ルーフィングシート防水	[3.5.2、3]　[表3.1.1]　[表3.5.1] 防水改修工法の種類 ／ 新規防水層の種類 ／ 施工箇所 ／ 仕上げ塗料塗り ／ 使用分類 ・P0S工法 ・S4S工法 ・P0SI工法 ・S4SI工法 ・S-F1　・S-F2 ・S-M1　・S-M2　・S-M3 ・SI-F1　・SI-F2 ・SI-M1　・SI-M2 ・S3S工法 ・S3SI工法 ・S-F1　・S-F2 ・SI-F1　・SI-F2 ・M4S工法 ・M4SI工法 ・S-M1　・S-M2　・S-M3 ・SI-M1　・SI-M2 ・SI-M3 ・シルバー ・カラー ※非歩行 脱気装置　・設ける　・設けない　[3.5.3] 目地処理　PCコンクリートの場合（　　）　[3.5.4]
	⑥ 塗膜防水	[3.6.2、3]　[表3.1.1]　[表3.6.1、2] 防水改修工法の種類 ／ 新規防水層の種類 ／ 施工箇所 ／ 仕上げ塗料塗り ・P0X工法 ／ ◎X-1　・X-2 ／ 平面、立上り ・L4X工法 ／ ・X-1　※X-2 ・P1Y工法 ／ ※Y-2 ・P2Y工法 ／ ※Y-2 ○シルバー ・カラー ※　既存防水は下地コンクリート、シート防水の上防水モルタルt=30　全撤去 脱気装置　※設けない　・設ける　[3.6.3]
	⑦ 脱気装置	[3.3.3]　[3.4.3]　[3.5.3]　[3.6.3] 種　類 ／ 材　質 ／ 設置数量 ・平場部脱気型 ／ ・ポリエチレン樹脂　・ABS樹脂 ・ステンレス鋼　・鋳鉄 ／ （　）m^2当たり1箇所 ○立上り部脱気型 ／ ・合成ゴム　・塩化ビニル樹脂 ○ステンレス鋼　・銅 ／ （　）m^2当たり1箇所
	⑧ シーリング	シーリング改修工法の種類　[3.1.4]　[表3.1.2] ○シーリング充填工法　○シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法　・ブリッジ工法 シーリング材の種類　※下表以外は、改修標仕表3.7.1による　[3.7.2]　[表3.7.1] 施工箇所 ／ シーリング材の種類（記号） ブリッジ工法　ボンドブレーカー張り　・適用する　[3.7.7] エッジング材張り　・適用する 接着性試験　※簡易接着性試験　・引張接着性試験（部位：　　）　[3.7.8]
	⑨ とい	といの材種　[3.8.2]　[表3.8.1] ※配管用鋼管 ○硬質塩化ビニル管　○VP　・RF-VP G） ・ 鋼管製といの防露巻き　[3.8.2、3]　[表3.8.4、5] ※行う（施工箇所　※改修標仕表3.8.5による　・　） 防露材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種 といの掃除口　※あり（図示）　・なし たてどい受金物の取付け　[3.8.3] ※図示　・標仕13.5.3（d）　（2）による ルーフドレン　[3.8.3]　[表3.8.1] 種　別 ／ 施工箇所 ○ろく屋根用（・たて形　○横形） ・バルコニー中継用 ・バルコニー用
	⑩ アルミニウム製笠木	[3.9.2]　[表3.9.1] 種　類 ／ 最小呼称肉厚（mm） ／ 表面処理 ／ 固定間隔 ／ 備　考 ・250形 ／ 1.6 ／ ※A－1又は B－1種 ／ ※固定方法及び間隔は図示による。 ・300形 ／ 1.8 ・350形 ／ 2.0 ／ ・B－2種（　） ・100形 ○400形 ／ 2.0 板材折曲げ形の笠木の取付方法　※図示　・　[3.9.3]
	11 折板葺	(13.3.2、3)　(表13.2.1) 形　式 ／ 形状（mm） ／ 材料（規格等） ／ 軒先面戸板 ／ 断熱材 ／ 耐火性能 ※重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ／ 山高（　） 山ピッチ （　） 板厚 ※0.6　・0.8 ／ ※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR－20－AZ150） ／ ※あり ・なし ／ ※あり 種別（　） 厚さ（　）mm 防火性能（　）h ・なし ／ ※30分 ・なし

工事名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事
図面名	改修工事特記仕様書（1）
作成年月日	
縮尺	図面番号　A-01
会社名	
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所

④ 外壁改修工事 共通事項

① 施工数量調査

調査範囲　※外壁改修範囲 ⊙図示の範囲 [1.5.2]

調査内容

(1) ひび割れの幅及び長さを壁面に表示し、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

(2) モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分を表面に表示し、欠損部の形状寸法等を調査する。

(3) コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。

(4) 塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示し、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

調査報告書の部数　※2部　・

② 改修材料

・既製調合モルタル

保水率 (%)	単位容積質量 (kg/ℓ)	接着強さ (N/mm²) 標準時	接着強さ (N/mm²) 温冷繰返し後	長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm²)
70.0以上	1.80程度	0.60程度	0.40以上	0.20以下	4.0以上

・パテ状エポキシ樹脂

初期硬化性 (N/mm²)	接着強さ（標準） (N/mm²)	圧縮強さ (N/mm²)	曲げ強さ (N/mm²)	硬化収縮率 (%)
標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下

(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

(2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。

(3) 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間又は製造後6箇月間保存したのちであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。

(4) 試験方法は、JIS A 6024（建築補修用注入エポキシ樹脂）に準ずる。

・可とう性エポキシ樹脂

比重	押出し性 (秒)	スランプ (mm)	加熱減量 (%)	引張強さ (N/mm²)	伸び (%)	引張接着性
表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	常温物性1.0以上 低温性　1.0以上 加熱劣化1.0以上	常温物性30.0以上 低温性　30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張応力 1.0 N/mm²以上 破断時の伸び 10.0%以上

(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

(2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。

(3) 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間又は製造後6箇月間保存したのちであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。

・タイル部分張替え工法用接着剤

適用範囲　張替え面積が比較的小さく、下地モルタルが健全な場所に用いる。

樹脂の種類　変成シリコーン樹脂系、ウレタン樹脂系

接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	凍結融解	熱劣化
強度 (N/mm²)	0.60以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上
凝集破壊率 (%)	75以上	50以上	50以上	50以上	50以上
皮膜物性	**標準**	**高温**	**低温**	**アルカリ温水**	**熱劣化**
引張強さ (N/mm²)	0.60以上	0.60以上	0.60以上	0.40以上	0.40以上
伸び (%)	35以上	35以上	35以上	25以上	25以上

貯蔵安定性（一液形のみ）	質量の変化が5%以内で、かつ、均質で異物が認められないこと。
混練終結確認容易性（二液形のみ）	混練終結時の色が明瞭であること。
耐熱性	JIS A 5557の試験において、80℃で4週間1kgの重りで安定していること。
ずれ抵抗性	ずれが生じないこと。

(1) 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。

(2) タイル、下地材等を侵すものでないこと。

(3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。

(4) 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6箇月間保存しても上記の品質性能に適合していること。

・エポキシ樹脂モルタル

接着強さ (N/mm²)	圧縮強さ (N/mm²)	曲げ強さ (N/mm²)
1.0以上	20.0以上	10.0以上

(1) こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上りが良好であること。

(2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

(3) 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。

(4) 形状に異常がなく、だれが生じないこと。

(5) 常温常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6箇月間保存しても上記の品質性能に適合していること。

⊙ポリマーセメントモルタル

種類　合成ゴム系、アクリル系、エチレン－酢ビ系等

曲げ強さ (N/mm²)	圧縮強さ (N/mm²)	接着強さ (N/mm²) 標準時	接着強さ (N/mm²) 湿潤時	接着強さ (N/mm²) 低温時
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上

(1) 表面状態　だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。

(2) 透水性　裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。

(3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

(4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6箇月間保存しても変質しないこと。

⊙ポリマーセメントスラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm²)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm²)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm²)
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15%以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55

粘調係数　0.50～1.00

・吸水調整材

全固形分 (%)	吸水量 (g)	接着強度 (N/mm²)	界面破断率 (%)
表示値±1.0以内	30分間で1以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

④－1 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁

① ひび割れ部改修工法

※樹脂注入工法 [4.1.4] [4.3.4]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (nℓ/n)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130　・	
		・	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40　・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70　・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130　・	
		・	・	

注入材料 [4.2.2]

※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形）

・

検査（コア抜取り）　※行わない [4.3.4]

・行う（抜取り部の補修方法：　　）

・Uカットシール材充填工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.5]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

⊙ール工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.6]

・パテ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

⊙アクリルゴム系ひび割れ吸収材

② 欠損部改修工法

㊙充填工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.7]

・エポキシ樹脂モルタル

⊙ポリマーセメントモルタル

④－2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁

1 既存モルタル塗りの撤去

・行う（※全面　・図示の範囲）

2 ひび割れ部改修工法

・既存モルタル撤去工法（範囲は図示　撤去部分の補修は、3.欠損部改修工法による）

※樹脂注入工法（※既存モルタル面　・既存躯体コンクリート面） [4.1.4] [4.4.2] [4.4.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (nℓ/n)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130　・	
		・	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40　・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70　・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130　・	
		・	・	

注入材料 [4.2.2]

※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形）

・

検査（コア抜取り）　※行わない [4.3.4]

・行う（抜取り部の補修方法：　　）

・Uカットシール材充填工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.4.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

・シール工法（※既存モルタル面　・既存躯体コンクリート面） [4.1.4] [4.2.2] [4.4.7]

・パテ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・既存塗り仕上材の撤去及び補修 [4.4.2] [4.6.3]

（※シール工法の範囲　・　　）

3 欠損部改修工法

既存モルタル面の欠損部 [4.1.4] [4.4.8、9]

改修工法の種類	材　料	品質・規格等
・充填工法	ポリマーセメントモルタル	
・モルタル塗替え工法	改修標仕2.2.2（g）による 既製目地材 ・適用する （形状　※図示　・　　）	塗厚25mmを超える場合の補強 ※行う　・行わない　・図示

4 浮き部改修工法

[4.1.4] [4.4.10～15] [表4.4.3、4]

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	アンカーピンの本数 (本/m²) 一般部	アンカーピンの本数 (本/m²) 指定部	注入口の箇所数 (箇所/m²) 一般部	注入口の箇所数 (箇所/m²) 指定部	充填量又は注入量 (箇所/nℓ)
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	――	――	※25 ・
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	――	――	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	――	――	※25 ・
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	――	――	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン [4.2.2]

材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径4mmの丸棒で全ねじ切り加工したもの

・

注入口付アンカーピン [4.2.2]

材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径外径6mm

・

④－3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁

1 既存タイル張りの撤去

・外壁タイル張り全面　・図示の範囲

撤去範囲　※下地モルタルまで　・張付けモルタルまで　・タイルのみ

2 ひび割れ部改修工法

改修箇所　※既存タイル張り面

・既存タイル撤去面（・コンクリート面　・モルタル面）

※樹脂注入工法 [4.1.4] [4.3.4] [4.5.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (nℓ/n)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130　・	
		・	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40　・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70　・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130　・	
		・	・	

注入材料 [4.2.2]

※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形）

・

検査（コア抜取り）　※行わない [4.3.4]

・行う（抜取り部の補修方法：　　）

・Uカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4] [4.2.2] [4.3.5] [4.5.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

3 欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.5.7]

※ポリマーセメントモルタル

・タイル部分張替え工法用接着剤（・変成シリコーン樹脂系　・ウレタン樹脂系）

・タイル張替え工法 [4.1.4] [4.5.8]

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 [4.5.8] [表4.5.1]

位置　※改修標仕表4.5.1による　・図示

4 浮き部改修工法

[4.1.4] [4.5.9～15] [表4.4.3、4]

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	アンカーピンの本数 (本/m²) 一般部	アンカーピンの本数 (本/m²) 指定部	注入口の箇所数 (箇所/m²) 一般部	注入口の箇所数 (箇所/m²) 指定部	充填量又は注入量 (箇所/nℓ)
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	――	――	※25 ・
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	――	――	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン [4.2.2]

材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径4mmの丸棒で全ねじ切り加工したもの

・

注入口付アンカーピン [4.2.2]

材質　※ステンレス鋼（SUS304）、呼び径外径6mm

・

5 タイル張り

タイルの種類 [4.2.2] [4.5.7、8]

施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	吸水率 I	吸水率 II	吸水率 III	耐凍害性 あり	耐凍害性 なし	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 特注	再生材の適用 G	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がり（小口、標準、二丁、びょうぶ）の役物は一体成形とする。

タイルの見本焼き　※行わない　・行う

壁タイル張りの工法 [4.5.7、8] [表4.5.3]

外装タイル　※密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り

外装ユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り

タイルの試験張り　※行わない　・行う [4.2.2]

6 目地改修工法

・目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4] [4.5.16]

既製調合モルタル　・使用する

・伸縮調整目地改修工法 [4.1.4] [4.5.16]

シーリング用材料 [3.7.2] [表3.7.1]

種類　※改修標仕表3.7.1による

④－4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 [4.6.3] [表4.6.2～5]

工　法	処理範囲		下地面の補修
㊙サンダー工法 ⊙高圧水洗工法 加圧力 ※50MPa程度 ・	㊙既存仕上面全体　⊙　図示 ㊙既存仕上面全体　⊙　図示		⊙ひび割れ部改修工法 ⊙浮き部改修工法 ⊙欠損部改修工法
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体　・		
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・		

塗膜はく離剤の種類　・ [4.2.2]

② 下地調整

材料　㊙下地調整塗材 [4.2.2] [4.6.4]

・ポリマーセメントモルタル

・防水形仕上げ塗材主材を使用

③ 仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類、仕上げの形状等 [4.1.4] [4.2.2] [表4.2.3、4]

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・
	・可とう形外装薄塗材Si	・
	・外装薄塗材E	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材S	砂壁状
⊙複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸模様
	・複層塗材SI	耐候性　※耐候形3種　・
	⊙複層塗材E	上塗材
	・複層塗材RE	溶媒　※水系　・溶剤系
	・可とう形複層塗材CE	樹脂　※アクリル系　・
	・複層塗材RS	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材CE	・メタリック
	・防水形複層塗材E	防水形の増塗材　※行う
	・防水形複層塗材RE	
	・防水形複層塗材RS	
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E	・平たん状
	・可とう形改修塗材RE	・さざ波状
	・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状

防火材料の指定 [4.2.2]

※屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする。

工事名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図面名	改修工事特記仕様書（2）		
作成年月日			
縮　尺		図面番号	A-02
会社名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		

5 建具改修工事

① 改修工法

[5.1.3]

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
・アルミニウム製建具		・	・	※建具表による　・図示
⦿鋼製建具	⦿外部	・	・	⦿建具表による　⦿図示
	・内部	・	・	※建具表による　・図示
・鋼製軽量建具		・	・	※建具表による　・図示
・ステンレス製建具		・	・	※建具表による　・図示

2 見本の製作等

・特殊な建具の仮組（建具符号：　　　　　　　　）　[5.1.5]

3 防犯建物部品

・適用する（適用箇所は建具表による）　[5.1.7]

4 アルミニウム製建具

性能等級等　[5.2.2]　[表5.2.1]

外部に面する建具

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・A種	S－4	※A－3	※W－4	※70	※図示
・B種	S－5	・	・	・	
・C種	S－6	A－4	W－5	100	

防音ドアセット、防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　　）

断熱ドアセット、断熱サッシ　・適用する　断熱性の等級（　　）

耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　　）

表面処理　[5.2.4]　[表5.2.2]

外部に面する建具

※B－1種　・B－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

屋内建具

※C－1種　・C－2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

網戸　[5.2.3]

防虫網の材種　※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）

形式　※外部可動式　・固定式

⑤ 鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　[5.3.2]　[表5.3.1]

外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による　[5.3.2]　[表5.2.1]

6 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　[5.4.2]

7 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　[5.3.2]　[表5.3.1]

外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による　[5.3.2]　[表5.2.1]

表面仕上げ　※HL　・鏡面　・　[5.5.4]

曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　[5.5.5]

8 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　　　　　　）　鏡板（　　　　　　　）　(16.6.2)

ふすまの上張り　(表16.6.3)

※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子

建物内部の木製建具に使用する表面材（合板）及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　(16.6.2)

※規制対象外　・第三種

⑨ 建具用金物

鍵　[5.6.4]

マスターキー　※製作する　・製作しない

鍵箱　[5.6.4]

市販品

形式　・30組用　・60組用　・120組用　・

10 自動ドア開閉装置

[5.7.2、3]　[表5.7.1～3]

ドアの種類	センサーの種類
※スライデイングドア	・マットスイッチ　※光線（反射）スイッチ
種類　・SSLD-1　・SSLD-2	・熱線スイッチ　・音波スイッチ
・DSLD-1　・DSLD-2	・光電スイッチ　・電波スイッチ
・スイングドア	・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ
種類　・SWD-1　・SWD-2	・ペダルスイッチ　・多機能便所スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）　[5.7.3]

11 自閉式上吊り引戸装置

材料　※ SUS304、アルミニウム製等防錆性能を有するもの　[5.8.2]

・ 製造所標準仕様による

性能　※ 改修標仕5.8.3による　[5.8.3]　[表5.8.1]

・ 製造所標準仕様による

12 重量シャッター

[5.9.2]

シャッターの種類	性　能
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　　）N/m²
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　　）N/m²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　[5.9.2]　[表5.9.1]

危害防止機構　※障害物感知装置　（自動閉鎖型）　[5.9.2]

一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　[5.9.2]

13 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　[5.10.2]　[表5.10.1]

スラット　材質　※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）　[5.10.3]

又はJIS G 3318（塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）

・鋼板

形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形　[5.10.4]

ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）　[表5.10.2]

耐風圧性能（　　）N/m²

14 オーバーヘッドドア

[5.11.2、3]

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能（　　）N/m²

15 ガラス

板ガラスの種類、厚さ等は建具表による　[5.12.2]

・ガラスブロック　[5.12.5]

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色　調	防火認定
・正方形 ・長方形	・	・	※クリア　・熱線反射 ・乳白色　・カラー（　　　）	※なし ・あり

ガラス留め材　[5.12.2]　[表5.12.1]

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を受けた条件による。

板ガラスをはめ込む溝の大きさ　[5.12.3]

改修標仕5.12.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会 JASS17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する。

ガラス用フィルム

名　称	種　類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　D1
・			

品質JIS A 5759による

6 内装改修工事

1 改修範囲

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲　[6.1.3]

※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲　[6.1.3]

※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修　[6.1.3]

※既存のまま

・図示の範囲

2 既存床の撤去並びに下地補修

ビニル床シート等の除去　※仕上材のみ（接着剤共）　[6.2.2]

・下地モルタル共（※図示の範囲　・除去範囲すべて）

合成樹脂塗床材の除去工法　・機械的除去工法　・目荒し工法　[6.2.2]

改修後の床の清掃範囲　※改修箇所の室内　・　[6.2.2]

3 既存壁の撤去並びに下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修　[6.3.2]　[4.4.9]

※モルタル塗り（塗厚25mmを超える場合の補強　※行う　・行わない）

・図示

4 木材 G

表面仕上げの程度　・A種　※B種　・C種　[6.5.1]　[表6.5.1]

現場搬入時の木材の含水率　※A種　・B種　[6.5.2]　[表6.5.2]

保存処理木材　・使用する（使用箇所：　　　　　　　）　[6.5.2]

構造材及び下地材の品質の基準　※改修標仕6.5.2(a)(2)(iv)による　・　[6.5.2]

造作材の材面の品質の基準　※A種　・B種　[6.5.2]　[表6.5.3]

代用樹脂を使用しない箇所　（　　　　　　　　　）　[6.5.2]　[表6.5.4]

5 集成材等 G

集成材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　[6.5.2]

構造用集成材　[6.5.2]

施工箇所	品　名	強度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法（mm）
			・1種 ※2種 ・3種	・使用環境A ・使用環境B ・使用環境C		

構造用単板積層材　[6.5.2]

施工箇所	接着性能	曲げ性能	樹種名	寸法（mm）
	・使用環境1 ・使用環境2			

造作用集成材　[6.5.2]

施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法（mm）
		※1等　・2等	

化粧ばり造作用集成材　[6.5.2]

施工箇所	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	寸法（mm）
				※1等　・2等	

単板積層材　[6.5.2]

施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法（mm）
	※天然木化粧加工 ・塗装加工 ・化粧加工しない （・1等・2等・3等）	・する ・しない	

6 床張り用合板及びその他の合板 G

合板のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　[6.5.2]

普通合板　[6.5.2]　[6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	その他の処理
（床）	5.5		※1類 ・2類	広葉樹　・1等　※2等 針葉樹　※C－D	・する ・しない	・難燃処理
（壁、天井）		・ラワン ・しな	・1類 ・2類		・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

構造用合板　[6.5.2]

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理
（床）	12.0		・特類 ※1類	・1級 ※2級	※C－D ・	・する ・しない

天然木化粧合板　[6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	化粧板の樹種名	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	・3.2 ※4.2 ・6.0	・なら ・しおじ	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

特殊加工化粧合板　[6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	化粧加工の方法	表面性能	加工面	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	※4.0 ・	・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・F ・FW ・W ・SW	・表面 ・両面	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理

7 防腐、防蟻処理

防腐処理　※行う（※改修標仕6.5.2(h)(3)による　・図示　　　）　[6.5.2]

防蟻処理　・行う（※図示　・　　　　　　　）　[6.5.2]

防腐、防蟻処理剤の種類及び品質　[6.5.2]

表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

8 接着剤（内装改修工事全般）

[6.5.2]　[6.8.2]　[6.9.3]　[6.11.5、6]　[6.13.2]　[6.14.2]　[6.16.3]

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外　・第三種

※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

9 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　[6.6.2]　[表6.6.1]

屋外（・19形　※25形）　屋内（※19形　・25形）

既存の埋込みインサート　・使用する　・使用しない　[6.6.4]

あと施工アンカーの引抜き試験　・行う　・行わない　[6.6.4]

屋外の軒天井、ピロティ天井等　[6.6.3、4]

野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離　※図示　・

野縁の間隔　※図示　・

耐風圧性を考慮した補強　※図示　・

天井下地材における耐震性を考慮した補強　[6.6.4]

・行う（補強箇所　※図示　補強方法　※図示）

10 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類　※改修標仕表6.7.1による　・図示　[6.7.3]　[表6.7.1]

スタッドの高さが5mを超える場合　※ 図示　[表6.7.1]

11 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能　[6.8.2]

帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満

又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）$1\times10^{7}\sim1\times10^{10}\Omega$程度

・

耐動荷重　JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩耗性試験、層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャスター性試験等の試験後、異常がないこと

ビニル床シート G　[6.8.2]

種　類	記号	施工箇所	色　柄	厚さ（mm）	特殊機能
※発泡層のないもの	※NC ・		※無地 ・マーブル柄	※2.5 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・発泡層のあるもの	・		※柄物 ・無地	・	・帯電防止 ・耐動荷重
・					

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　　　　　）　[6.8.3]

ビニル床タイル G　[6.8.2]

種　類	記号	施工箇所	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	特殊機能
・コンポジション ビニル床タイル（半硬質）	CT		※無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・コンポジション ビニル床タイル（軟質）	CTS		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ホモジニアスビニル床タイル	HT		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・置敷きビニル床タイル	HTL		※無地 ・	・500×500 ・	・	・帯電防止 ・耐動荷重

ビニル幅木　[6.8.2]

材質　※軟質　・硬質

高さ（mm）　※60　・75　・100

厚さ（mm）　※2.0　・

ゴム床タイル　[6.8.2]

色柄　（　　　　　　　　）

厚さ（mm）　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0

寸法　（　　　　　　　　）

12 カーペット敷き

織じゅうたん　[6.9.3]　[表6.9.1]

種　別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備　考
・A種 ・B種 ・C種	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	※無地 ・柄物 （標準品）	※人体帯電圧 3kV以下 ・	

下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

タフテッドカーペット　[6.9.3、4]　[表6.9.2]

パイル形状	パイル長さ（mm）	工　法	帯電性	備　考
・カットパイル	※5～7　・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	※人体帯電圧 3kV以下 ・	
・ループパイル	※4～6　・			
・レベルループパイル	※4　・			
・カット、ループ併用	・			

下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

ニードルパンチカーペット　[6.9.3]

厚さ（mm）　・

帯電性　※人体帯電圧3kV以下　・

備考

タイルカーペット　[6.9.3、4]

パイル形状	種　類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	帯電性	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500 ・	※6.5 ・	※人体帯電圧3kV 以下（フリーアクセスフロア敷設範囲） ・	
・カットパイル					
・カット、ループ併用					

タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・

階段部分　※模様流し　・市松敷き　・

見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　※図示　・　　　　）　[6.9.3]

13 合成樹脂塗床

[6.10.2、3]　[表6.10.1～7]

種　別	施工箇所	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗床材		※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材		※薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

工 事 名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事
図 面 名	改修工事特記仕様書 (3)
作成年月日	
縮　尺	図面番号　A-03
会 社 名	
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所

6 内装仕上げ工事

14 フローリング張り

単層フローリング G [6.11.2～6] [表6.11.1、2]

種類		樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	緩衝材	工法
・フローリングボード	根太張用	※なら・	※15・	幅 ※75・ 長さ 500以上	※合成樹脂発泡シート・	・釘留め工法
	直張用					・接着工法
・フローリングブロック	直張用	※なら・	※15・	※303×303・	※合成樹脂発泡シート・	・モルタル埋込み工法
						・接着工法
・モザイクパーケット	直張用	・なら・	・8・	・	※合成樹脂発泡シート・	接着工法

単層フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種

天然木化粧複合フローリング G [6.11.2、3、5、6] [表6.11.3、4]

種類		樹種	種別又は大きさ (mm)	防湿処理又は緩衝材	工法
・複合1種 ・複合2種 ・複合3種	根太張用	※なら・	・A種 ・B種 ※C種	・防湿処理を行う	・釘留め工法
	直張用		厚さ 8以上 幅 75以上 長さ 900以上	※合成樹脂発泡シート・	・接着工法

複合フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種

仕上げ塗装 ・塗装品 ( ) [6.11.7]
・無塗装品(・塗装する 施工箇所:)
種類 ※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインのうえワックス塗り
・生地のままワックス塗り

15 畳敷き

[6.12.2] [表6.12.1]

下地の種類	畳の種別
・改修標仕 表6.5.9による床組	※B種 ・
・ポリスチレンフォーム床下地	※C種 ・

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

16 ポリスチレンフォーム床下地材

・A種(ノンフロンのもの) G
畳下地 厚さ(mm) ※40 ・65 ・80(不燃)
フローリング類下地 厚さ(mm) ※80 ・95 (不燃)

17 せっこうボード及びその他ボード張り

[6.13.2] [表6.13.1]

種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等
・せっこうボード	GB−R	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・15.0(不燃)
・シージングせっこうボード	GB−S	12.5(不燃)
・強化せっこうボード	GB−F	・12.5(不燃) ・15.0(不燃)
・せっこうラスボード	GB−L	9.5
・化粧せっこうボード(木目)	GB−D	12.5(不燃) 幅440mm程度 模様(※柾目 ・板目) 専用下地材付き
・不燃積層せっこうボード	GB−NC	9.5(不燃) ・化粧なし(下地張り用) ・化粧あり(トラバーチン模様)
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2(無石綿) ・6 ・8 ・
・ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ(※9(不燃) ・12 ・) ※凹凸タイプ(※12(不燃) ・15 ・19 ・)
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボード2号32K	GW-B	・25(ガラスクロス包) ・
・硬質木毛セメント板 G	HW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板 G	NW	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板 G	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板 G	NF	・30 ・
・単板張りパーティクルボード G		・無研磨板(VN) ・研磨板(VS) ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・化粧パーティクルボード G		・単板オーバーレイ(DV) ・プラスチックオーバーレイ(DO) ・塗装(DC) ・10(難燃) ・12(難燃) ・
・ミディアムデンシティファイバーボード G	MDF	・素地MFD(RS) ・化粧MDF(・DV・DO・DC) ・3 ・7 ・9 ・12 ・
・ハードボード(素地) G	HB	・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・ハードボード(化粧) G	HB	・内装用化粧(DI) ・外装用化粧(DE) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・インシュレーションボード G	IB	A級二次加工品 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による 厚さ1.2

パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量 [6.13.2]
※規制対象外 ・第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 [6.13.2]
※適用する ・適用しない
合板類の張付け ・A種 ※B種 [6.13.3] [表6.13.3]

18 壁紙張り

[6.14.2]

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維(織物)	プラスチック(ビニル)	その他(化学繊維)	無機質	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

壁紙のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.14.2]
下地調整 [6.14.3] [表7.2.4] [表7.2.5] [表7.2.7]
モルタル面、プラスター面 ・RA種 ※RB種 (施工箇所:)
コンクリート面 ・RA種 ※RB種 (施工箇所:)
せっこうボード面 ・RA種 ・RB種 (施工箇所:)

19 モルタル塗り

防水剤(防水モルタル塗りの混入剤) [6.15.3]
防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする。(JIS A 1404による試験)

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発 1時間以上 終結 10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下(294.0 kPaの水圧を1時間かける)

安定性、膨張性のひび割れ及びそりがないこと。(JIS R 5201の試験)
吸水調整材は、4章外壁改修工事共通事項による。 [6.15.3]
既製目地材 ※適用しない ・適用する [6.15.3]
床目地 ・設ける(工法 ※押し目地 ・) [6.15.6]

20 タイル張り

タイルの種類 [6.16.3]

施工箇所	形状寸法(mm)	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	吸水率 I	II	III	耐薬害性 あり	なし	役物 あり	なし	色 標準	特注	再生材の適用 G	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がり(小口、標準、二丁、びょうぶ)の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き ※行わない ・行う

コンクリート素地面の目荒し工法(高圧水洗) ・行う [6.16.5]
内装壁タイル張りの工法 ※壁タイル接着剤張り ・改良積上げ張り [6.16.5] [表6.16.5]

21 セルフレベリング材塗り

[6.17.2] [表6.17.1]
・せっこう系(施工箇所及び厚さ ※仕上表による ・図示 ・)
・セメント系(施工箇所及び厚さ ※仕上表による ・図示 ・)

22 浴室天井材

市販品

材質	表面仕上げ	性能	幅(mm)	備考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品 ・アルマイト処理品	準不燃品	※200 ・100	回り縁はとい付きとし、製造所の標準品とする。
・硬質塩ビ製	※塗装品 ・木目調		※300 ・100	

23 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備考
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止タイル ・タイルカーペット	

耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。
表面仕上材の品質、性能は、標仕19章による。
構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・
スロープ及びボーダー ※製造所の仕様による ・図示
配線用取出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20～30% ・
配線取出し開口 ※パネル1枚につき40×80(mm)程度の開口1箇所以上 ・図示
空調用吹出し(吸込み)パネル
※なし
・あり(※固定式 ・可変式):施工箇所(※図示 ・)
コンセント等の取付け対応 ※製造所の仕様による(コンセント本体は別途設備工事)
コンセントの箇所数 ※図示
ローリングロード性能 ※適用する ・適用しない

24 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 (・内臓 ・露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式	・	※鋼板 (※0.6 ・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・あり ( ) ・なし	・あり ・なし

25 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ (36db以上)		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は18壁紙張りによる。
遮音性能はJIS A 6512の遮音性試験に準拠する。

26 トイレブース

表面仕上げ材 (20.2.5)

表面材の材質	脚部 形状	脚部 材質	ドアエッジ 形状	ドアエッジ 材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・	※縞木 ・支柱 ・なし	・アルミニウム製 ・ステンレス製	・標準 ・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

27 階段滑り止め

(20.2.6)

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド
・ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り	・約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	※あり(※ビニル製 ・ステンレス製) ・なし

28 階段手すり

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所
※集成材	※クリヤラッカー ・	・60 ・45	
・ステンレスパイプ	・HL ・		
・鋼製パイプ	・EP-G ・		
・ビニル製			

29 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

種類		寸法(mm)	色彩	備考
・黒板	※焼付け		※緑 ・黒 ・	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
・ホワイトボード	※ほうろう		※緑 ・黒 ※白	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分

30 表示

(20.2.10)

区分	材質	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付け高さ	書体
・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	※ステンレス製 ・図示	※30φ ・	※市販品 ・	※図示 ・	
・室名札 ・ピクトグラフ ・扉番号 ・階数表示	※アクリル板 ・	※図示	※5 ・	※図示 ・	
・建物案内板 ・各階案内板 ・	※アクリル板 ・	※図示	※5 ・	※図示 ・	

案内用図記号はJIS Z 8210による。

誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。

31 ブラインド

・既存再使用する(養生方法:) [2.3.1] [5.1.6]
・新設する (20.2.12)

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅(mm)	施工箇所
※横形	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	
・縦形	・1本操作コード ※2本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	

32 ロールスクリーン

(20.2.13)

材種	操作方式	遮光性能	寸法(mm)	施工箇所	備考
※ポリエステル ・綿 ・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級 ・	・図示 ・		防炎性能 ※あり

33 カーテン

・既存再使用する(養生方法:) [2.3.1] [5.1.6]
・新設する (20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・電動 ・ひも引き ・手引き	・フランスひだ ・箱ひだ・つまひだ ・プレーンひだ・片ひだ		
			・		(暗幕)
			・		

34 カーテンレール

・既存再使用する [5.1.6]
・新設する (20.2.14)
材種 ※アルミニウム製 ・ステンレス製
形式 ・片引き ・引分け(※暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする)
形状 ・C形 ・D形 ・I形 ・

35 ブラインドボックス及びカーテンボックス

・既存再使用する [5.1.6]
・新設する
・市販品(アルミニウム製 押出形材)
溝幅×深さ(mm) ・90×150 ※120×80 ・120×150 ・150×80 ・
表面処理 ※B−1 ・B−2(※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)
・図示

36 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ

37 床点検口

材種	寸法	形式			
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製 ・鋳鉄製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・張物用 ・充填用 ・張物、充填兼用	

38 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式(壁埋込み型) ・可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ・天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置(埋込み型)

39 視覚障害者用床タイル(誘導用及び注意喚起用床材)

(19.2.2)

施工箇所		種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内		※塩化ビニル製	※300×300 ・	※7.0 ・
		・レジンコンクリート製	※300×300 ・	
		・磁器又はせっ器質タイル	※300×300 ・	
屋外		※レジンコンクリート製	300×300	※30 ・
		・磁器又はせっ器質タイル	300×300	

ブロックパターンはJIS T 9251による。

40 くつふきマット

材種	受枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・ステンレス鋼(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

41 流し台ユニット

種類	寸法(L= mm)	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付き	※優良住宅部品
・コンロ台	※600 ・700 ・	バックガード ※あり	(セクショナルキッチンI型)
・吊戸棚	※1200 ・900 ・600		・
・水切棚	※1200 ・900	ステンレス製 ※1段式	※市販品

42 洗面カウンター

材種 ・メラミン樹脂化粧板張り(心材:集成材) ・人工大理石
奥行き(mm) ・約450 ・約600

43 収納家具

材質 ・ [6.5.2][6.13.2]
形状・寸法 ※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・第三種

44 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種 ・2種 ・3種
・鋼製物品棚		・4種 ・5種 ・6種

45 屋内掲示板

枠の材質 ※アルミニウム製
表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・

工事名	令和6年度 那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前磯機場改修工事
図面名	改修工事特記仕様書 (4)
作成年月日	
縮尺	図面番号 A-04
会社名	
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所

7 塗装改修工事

1 材料

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 [7.1.3]
※規制対象外　・第三種
建物内部に使用する塗料の材質　・水性系　・
防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 [7.1.3]
・次の箇所を除き防火材料とする。（施工箇所：　　）

2 下地調整

既存塗膜の除去範囲（塗替えでRB種の場合） [7.2.1] [表7.2.1～7]
※塗替え面積の30%　・図示

下地調整の種別等 [7.2.2～7] [表7.2.1～7]

下地面の種類	下地調整の種別 塗替え	下地調整の種別 新規	ひび割れ部の補修
木部	※RB種　・	・RA種　・RB種	
鉄鋼面	※RB種　・	RA種	
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具を除く）	※RB種　・	RA種	
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※RB種　・	RC種	
モルタル面、プラスター面	※RB種　・	・RA種　・RB種	・行う
コンクリート面、ALCパネル面（2-UE、2-ASE、2-FUEは除く）	※RB種　・	・RA種　・RB種	・行う
コンクリート面、押出成形セメント板面（2-UE、2-ASE、2-FUEの場合）	・	・RA種　・RB種	・行う
せっこうボード面、その他ボード面	※RB種　・	・RA種　・RB種	

3 錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別等 [7.3.2、3] [表7.3.1～4]

塗装面		塗料種別	工程種別	備考
鉄鋼面	屋外	※A種　・B種	※C種　・	
	屋内	・A種　※B種	※C種　・	
		C種	※C種　・	EP-Gの場合
亜鉛めっき鋼面	塗替え	※A種　・B種	※C種　・	
		C種	※C種　・	EP-Gの場合
	新規（鋼製建具を除く）	※A種　・B種	・A種　・B種	
		C種	・A種　・B種	EP-Gの場合
	新規鋼製建具	※A種　・B種	A種	2-UE、2-ASE、2-FUEは除く

4 塗装

[7.4.1～7.16.2] [表7.4.1～7.16.1]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
・合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 塗料の種類　※1種　・	木部	※B種　・	※A種　・
	鉄鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具を除く）	※B種　・	※B種　・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種　・	※B種　・
・クリヤラック塗り（CL）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種
・フタル酸樹脂エナメル塗り（FE）	屋内木部	※B種　・	・A種　・B種
	屋内鉄鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種　・	・A種　・B種
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り（NAD）	屋内コンクリート面	※B種　・A種	※B種　・A種
	屋内モルタル面	※B種　・A種	※B種　・A種
・アクリル樹脂エナメル塗り（AE）	屋外コンクリート面	※B種　・	・A種　・B種
	屋内モルタル面	※B種　・	・A種　・B種
・2液形ポリウレタンエナメル塗り（2-UE）	屋外鉄鋼面	・	A種
	屋外亜鉛めっき鋼面	・	A種
	屋外コンクリート面	・A種　・B種	・A種　・B種
	屋外押出成形セメント板面	・A種　・B種	・A種　・B種
・アクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）	屋外鉄鋼面	※B種　・	A種
	屋外亜鉛めっき鋼面	※B種　・	A種
	屋外コンクリート面	※B種　・A種	※B種　・A種
	屋外押出成形セメント板面	※B種　・A種	※B種　・A種
・常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り（2-FUE）	屋外鉄鋼面	・	A種
	屋外亜鉛めっき鋼面	・	A種
	屋外コンクリート面	・A種　・B種	・A種　・B種
	屋外押出成形セメント板面	・A種　・B種	・A種　・B種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）	屋内木部	※B種　・	※A種　・
	屋内鉄鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	コンクリート面	※B種　・	・A種　・B種
	モルタル面・プラスター面	※B種　・	・A種　・B種
	せっこうボード面	※B種　・	・A種　・B種
	その他ボード面		
・合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）	コンクリート面	※B種　・	・A種　・B種
	モルタル面・プラスター面	※B種　・	・A種　・B種
	せっこうボード面	※B種　・	・A種　・B種
	その他ボード面		
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）	屋内のコンクリート面・モルタル面・プラスター面・せっこうボード面等 下地調整 RA種	※B種　・	・A種　・B種
	RB種	A種	・A種　・B種
	RC種	C-3種	・A種　・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種
・オイルステイン塗り（OS）	木部		
・マスチック塗材塗り A種及び種の凸面処理 ・行う　・行わない	コンクリート面	・	・
	押出成形セメント板面	・	・
	モルタル面	・	・
	ALCパネル面	・	・

8 耐震改修工事 共通事項

1 適用範囲

工事内容
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 [8.1.1]
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法）
・柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き工法）
・柱補強工事（連続繊維補強工法）
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事

工事種別
・施工調査（施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修）
・撤去工事（設備機器配管及び仕上げの取壊し・撤去（下地の一部又はすべてを含む）、構造体のはつり）
・鉄筋工事
・あと施工アンカー工事
・コンクリート工事
・鉄骨工事
・グラウト工事
・連続繊維補強工事
・スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・その他工事

8-1 撤去工事

1 既存部分の撤去等

撤去範囲 [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3]
※図示　・
既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断 [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3]
※図示　・
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置 [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3]
※露出部分は、錆止め塗料塗りを行う　・

2 既存部分の処理

既存コンクリート面の目荒し [8.19.3] [8.20.3] [8.21.3]
適用範囲
※既存コンクリートとの打継ぎ面
※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面
・
目荒しの範囲
・柱、梁面　打継ぎ面又は接合面全面の15～30%程度
・壁　　打継ぎ面又は接合面全面の10～15%程度
・
目荒しの程度
※平均深さ2～5mm（最大7mm）程度の凹面を、全体にわたってつける。
・

8-2 鉄筋工事

1 鉄筋

鉄筋の種類 [8.2.1] [表8.2.1]

種類の記号	呼び名（mm）
・SD295A	※D16以下　・
・SD345	※D19以下　・
・	

2 溶接金網

網目の形状、寸法等 [8.2.2]

網目の形状、寸法（縦×横）（mm）	鉄線の径又は呼び名（mm）	規格
※100×100	※6.0	JIS G 3551による
・	・	

3 鉄筋の継手及び定着

継手方法等 [8.3.4] [8.4.2、3]

部位	継手方法	呼び名（mm）
柱、梁の主筋	※ガス圧接　・機械式継手	
その他の鉄筋（　　）	※重ね継手　・	

鉄筋の重ね継手の長さ [8.3.4]
※鉄筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示）
・

鉄筋の定着長さ [8.3.4]
※鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示）
・

帯筋組立の形の種別 [8.3.4] [図8.3.4]
・Ⅰ-Ⅰ形　・Ⅱ-Ⅱ形　・Ⅲ-Ⅲ形　・

4 鉄筋のかぶり厚さ

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。 [8.3.5] [表8.3.6]
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	改修標仕表8.3.6の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇等の外気に接する打放し面	※10　・
・	

5 壁の配筋

壁配筋の重ね継手の長さ [8.3.7]
※壁配筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示）
・
壁配筋の定着長さ　※図示 [8.3.7]

6 壁開口部の補強

耐震壁の開口部補強　※図示　・ [8.3.8] [表8.3.8] [図8.3.7]

7 ガス圧接

圧接部の確認試験　※超音波探傷試験　・引張試験 [8.3.9]

8 既存構造体との取合い

割裂補強筋 [8.19.6] [8.20.7]

種類	材料	材質	径	本数ピッチ等	適用箇所
※スパイラル筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼	※SR235 ・	※φ6 ・φ9 ・	スパイラルの径（mm） （　　） スパイラルのピッチ（mm） （　　）	※図示 ・
・はしご筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼（異形鉄筋）	※SD295A ・	・D10 ・	壁面内方向筋 （　　） 壁面外方向筋 （　　）	
・	・	・	・	・	

8-3 あと施工アンカー工事

1 あと施工アンカー

材料等 [8.2.4]
・金属系アンカー
セット方式　※本体打込み式
引張耐力　※図示
せん断耐力　※図示
接合筋の種類、径、長さ　※図示
性能確認試験　・実施する（試験方法及び試験数　※図示）　・実施しない
・接着系アンカー
アンカーの種類　※カプセル型
引張耐力　※図示
せん断耐力　※図示
接着剤の品質　※有機系　・無機系
アンカー筋の種類　※改修標仕表8.2.1の異形棒鋼　・全ねじボルト
性能確認試験　・実施する（試験方法及び試験数　※図示）　・実施しない

2 穿孔前の埋込み配管等の探査

探査範囲 [8.11.2]
※あと施工アンカー施工部分すべて
・図示
探査方法 [8.11.2]
※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつり出しによる
・

3 施工確認試験

試験の適用 [8.11.5]
※実施する（試験方法　※引張試験　・　　）
確認強度　※図示　・
・実施しない

4 シアコネクタ（現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いるシアコネクタ）

種類　※金属拡張系あと施工アンカーの異形差筋アンカー [8.2.4] [8.3.7]
・
径（mm）　※D10
既存壁への有効埋込み長さ（mm）　※7d（d：シアコネクタの径）
増打ち壁への有効定着長さ（mm）　・
間隔（mm）　※500×500

5 型枠工事

[8.7.9]
シアコネクタとセパレーターの兼用　※兼用してもよい　・兼用しない

8-4 コンクリート工事

1 コンクリートの種類及び強度

レディーミクストコンクリートの類別　※Ⅰ類　・Ⅱ類 [8.1.3]

普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.3]

設計基準強度Fc（N/mm²）	適用箇所
・21	
・24	

軽量コンクリートの設計基準強度等 [8.1.3] [8.10.1] [表8.10.1] [8.10.3]

設計基準強度Fc（N/mm²）	気乾単位容積質量（t/m³）	種別	適用箇所
・21		・1種　・2種	
・		・1種　・2種	

2 コンクリートの品質

スランプ [8.1.4]

スランプ（cm）	適用箇所
※18	
・	

コンクリートの仕上り
部材の位置及び断面寸法の許容差 [8.1.4] [表8.1.2]
※改修標仕表8.1.2による
・　　（適用箇所：　　）
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ [8.1.4] [表8.1.3]

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・A種	

仕上りの平たんさ [8.1.4] [表8.1.4]
※改修標仕表8.1.4による
・　　（適用箇所：　　）

3 コンクリートの材料

セメント [8.2.5] [表8.2.3]
セメントの種類

種類	適用箇所
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	
・高炉セメントB種 G	
・フライアッシュセメントB種 G	

普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で325J/gは下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

骨材 [8.2.5]
細骨材及び混合細骨材
・フェロニッケルスラグ細骨材 G　使用部位（　　）
・銅スラグ細骨材 G　使用部位（　　）
・電気炉酸化スラグ細骨材　使用部位（　　）
砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分　※A　・B
砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分　※A　・B

混和材料 [8.2.5] [8.5.8]
種類　※混和剤　・混和材
混和材料の使用量　※改修標仕8.5.8(a)、(b)、(c)による
・

4 コンクリートの調合強度

コンクリート強度の気温による補正値 [8.5.5]
室内の工事における温度補正　・行う　・行わない

5 無筋コンクリート

設計基準強度等 (6.14.1～3)

種類	設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	粗骨材の最大寸法（mm）	適用箇所
※普通コンクリート	※18	※15又は18	※25	
・軽量コンクリート	・	・	・20	

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
・高炉セメントB種 G（捨コンクリート）

6 高い強度のコンクリート

設計基準強度 [8.9.1]

設計基準強度Fc（N/mm²）	適用箇所
・27　・30　・33　・36	

混和材料 [8.9.3]
※混和剤
※高性能AE減水剤標準形又は遅延形
・

7 断熱材兼用型枠

種類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁（図示の範囲） ・	※40以下 ・	断熱抵抗 ＝厚さ／熱伝導率 ＝0.676以上 （m・℃/W）
		製造所　建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの		

8 コンクリートの打込み工法等

部位ごとのコンクリート打込み工法の指定 [8.19.8] [8.21.5]

補強工法	打込み工法	部位
現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	※工法指定なし	・すべての増設壁　・図示　・
	・流し込み工法[8.19.8(a)(1)及び(b)]	・すべての増設壁　・図示　・
	・圧入工法[8.19.8(a)(2)及び(c)]	・すべての増設壁　・図示　・
	・	・図示　・
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	※工法指定なし	・すべての増設柱　・図示　・
	・流し込み工法[8.19.8(a)(1)及び(b)]	・すべての増設柱　・図示　・
	・圧入工法[8.19.8(a)(2)及び(c)]	・すべての増設柱　・図示　・
	・	・図示　・

鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 [8.21.5]
柱頭柱脚の隙間部間の型枠
※発泡プラスチック保温材等を埋め込む
・
柱頭柱脚の隙間寸法　※図示　・
既存柱外周部あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ　※図示

8-5 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 [8.1.5]
※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（　）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する工場

2 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※鉄骨溶接基準図による　・
適用箇所　※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部
・図示（　　）

3 施工管理技術者

※適用する　・適用しない [8.1.5] [8.14.2]

4 鋼材

鋼材の材質等 [8.2.4] [8.2.7] [表8.2.5]

種類の記号	適用箇所	規格等
		※JISによる　・
		※JISによる　・

5 高力ボルト

ボルトの区分 [8.2.8]
※トルシア型高力ボルト
・JIS形高力ボルト
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.1.6] （別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・
すべり係数試験 [8.13.2]
※行わない　・行う（試験方法等：　　）

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.2.8] [8.1.6] （別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・
摩擦面の処理 (7.12.4)
※ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法　※すべり耐力試験方法等　・図示

7 普通ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.3) [8.1.6] （別2-1.1～1.3）
※（別2-1.1～1.3）による　・

8 アンカーボルト

アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 (7.10.3) （表7.10.1）
・構造用　（※図示　・　　）
・建方用　（・A種　※B種　・C種　）

柱底均しモルタルの工法の種別 (7.10.3) （表7.10.2）
※A種　・B種

9 鉄骨工作仮組

・行う　※行わない [8.12.9]

10 溶接接合

開先の形状　※鉄骨溶接基準図による　・ [8.14.4] （別2-3.1～3.4）
鋼製エンドタブの切除する部分　※図示 [8.14.7]
スカラップの形状　※鉄骨溶接基準図による　・ [8.14.7]

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　※行う　・行わない [8.14.11]
放射線透過試験　※行わない　・行う [8.14.11]
マクロ試験（エンドタブ使用）　※行わない　・行う [8.14.11]

11 スタッド（頭付きスタッド JIS B 1198）

呼び名等

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

12 錆止め塗装

耐火被覆材の接着する面の塗装 [8.16.3]
・行う（※JIS K 5622　・　　）　※行わない

工事名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図面名	改修工事特記仕様書（5）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	A-05
会社名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		

8-5 鉄骨工事

1.3. 耐火被覆

種別等 [8.17.2～7]

種　別		所要性能及び適用箇所
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式吹付けロックウール	
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・ラス張りモルタル塗り		
・		

耐火被覆面への錆止め塗装　・行わない　・行う（適用箇所：　　）

8-6 ウレタンコート工事

1 モルタル及びグラウト材

構造体用モルタル [8.2.10] [8.5.10]

※ [8.2.10] 及び [8.5.10] による　・

柱底均しモルタル [8.2.10]

※無収縮モルタル　・

グラウト材 [8.2.10]

※無収縮グラウト材（セメント、混和材、砂は無収縮モルタルに準ずる）

無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は次による

無収縮モルタルの材料及び調合

混和材	セメント系（酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比）　（セメント＋混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法 [表8.2.8]

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢　3日　25.0 N/mm^{2}以上 材齢 28日　45.0 N/mm^{2}以上
付着強度	材齢 28日　3.0 N/mm^{2}以上
塩化物量	0.30kg/m^{3}以上
試験方法	(1) 日本道路公団規格JHS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の9.6塩化物含有量の試験方法による。

無収縮グラウト材の材料（プレミックス及び現場調合形）

混和材	セメント系（酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法（現場調合形においては標準使用量・配合値）

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢　3日　20.0 N/mm^{2}以上 材齢 28日　40.0 N/mm^{2}以上
付着強度	材齢 28日　2.5 N/mm^{2}以上
塩化物量	0.30kg/m^{3}以上
試験方法	(1) 日本道路公団規格JHS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）による。 なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の9.6塩化物含有量の試験方法による。

8-7 連続繊維補強工事

1 連続繊維補強工法

連続繊維補強工法 [8.21.7]

・「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」（(財)日本建築防災協会発行）の第4章[補強工事の施工]による工法又は同等の性能を有する工法

・（財）日本建築防災協会の評価を受けた工法

・

2 連続繊維シート

連続繊維の材料 [8.2.11]

・炭素繊維　・アラミド繊維　・ガラス繊維　・

連続繊維の材質 [8.2.11]

引張強度（含浸硬化後）　・（　　）N/mm^2　・

ヤング係数（含浸硬化後）　・（　　）N/mm^2　・

繊維目付け量　・（　　）g/m^2　・

シート厚さ　・（　　）mm　・

シート張り方向　※図示

定着方法　※図示

含浸接着樹脂　・低粘型　・

プライマー　・低粘型　・

下地処理 [8.21.7]

仕上げモルタルの除去　※行う　・行わない

下地処理の範囲　※図示

下地処理の程度　※図示

柱の隅角部の面取り

箇所　※図示

大きさ　※図示

下地調整　※行う　・ [8.21.7]

ひび割れ部改修　・行う　・行わない [8.21.7]

種類及び部位　※図示

引張強度試験　・行う　・行わない [8.21.7]

試験数量　※図示

付着強度試験　・行う　・行わない [8.21.7]

試験数量　※図示

8-8 耐震スリット新設工事

1 スリットの施工

既存撤去部の配管等の探査 [8.22.2]

※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う

・はつり出しによる

スリットの幅及び深さ　※図示 [8.22.2]

9 屋根防水改修工事

1 アスベスト含有建材の処理工事

分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1]

・行う（採取箇所　※図示）

調査方法

材料名	調査方法（1材料当たりの試料数）
	※定性分析（※3　・　）　・定量分析（・3　・　）
	※定性分析（※3　・　）　・定量分析（・3　・　）
	※定性分析（※3　・　）　・定量分析（・3　・　）

分析方法

※JIS A 1481（建材製品中のアスベスト含有率測定方法）による

・

分析結果については、監督職員に報告すること

報告書の様式

・（社）日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」

・

アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1]

・行う（測定箇所　※図示）

測定時期、場所及び測定点数

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数（各処理作業室ごと）	備　考
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	各（ ）点	
・	測定2		施工区画周辺 又は敷地境界	計2点	
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各（ ）点	
・	測定4		セキュリティーゾーン 入口	各1点	空気の流れを確認
・	測定5		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各1点	除じん装置の性能確認
・	測定6		施工区画周辺 又は敷地境界	4方向各1点	
・	測定7	処理作業後（隔離シート撤去前）	処理作業室内	各（ ）点	
・	測定8		施工区画周辺 又は敷地境界	4方向各1点	

(1) 施工区画とは、処理作業室、セキュリティーゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理工事に直接又は間接的に係る区画、施工区画周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。

(2) 処理作業室の面積が50m^{2}以下の場合は2点、300m^{2}までは3点とする。300m^{2}を超えるような場合は、監督職員と協議する。

測定方法

JIS K 3850-1（空気中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法）による。

種類

※位相差顕微鏡法

試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法用として使用し、他方はその結果が高い場合（10本/L以上）に行う位相差・分散顕微鏡法用に保存しておく。

・位相差、分散顕微鏡法

測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定3（作業環境）	測定1,4,5,7（室内環境）	測定2,6,8（大気環境）
メンブレンフィルターの直径（mm）	25	25	47
試料の吸引流量　（L/分）	1	5	10
試料の吸引時間　（分）	5	120	240
計数視野数	50	50	50
定量限界　（本/L）	50	0.5	0.3

測定記録項目

(1) 除去するアスベスト含有建材の種類

(2) 測定点の位置の図面

(3) 測定日時、天候、気流

(4) 試料採取条件

(5) 標本作製方法

(6) 使用顕微鏡の種類（開口数を含む）

(7) 計数条件（※SEテストスライドの読取りグループ番号を含む）

(8) 繊維数濃度（位相差顕微鏡法の場合は総繊維数濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維数濃度）

(9) 定量限界

(10) その他

アスベスト含有吹付け材の除去（レベル1）　・行う [9.1.3]

除去対象範囲　※図示

除去工法　※改修標仕9.1.3(b)(1)(i)～(iv)による　・

除去したアスベスト含有吹付け材等の処理

※密封処理（二重袋梱包）

・セメント固化

除去対象範囲　※図示

作業場の隔離　・行う　・行わない

アスベスト含有保温材等の除去（レベル2）　・行う [9.1.4]

除去対象範囲　※図示

アスベスト含有成形板の除去（レベル3）　・行う [9.1.5]

2 外断熱改修工事

断熱材の種類 [9.3.2]

種　類		発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ（mm）
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・フェノールフォーム保温材	・	A種 G	F☆☆☆☆等級	・
・ロックウール	・		F☆☆☆☆等級	・
・グラスウール	・		F☆☆☆☆等級	・

外装材の種類 [9.3.2]

種　類	防火性能
・	

既存外壁の仕上材の撤去　・あり　・なし [9.3.3]

下地面の清掃及び下地調整　※断熱材製造所の指定する仕様 [9.3.3、4]

通気層　・あり（　　mm）　・なし [9.3.4]

試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 [9.3.4]

特記なき事項は、製造所の仕様による。

3 ガラス改修工事

復層ガラスの厚さ　建具表による [9.4.2]

複層ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分　※U3－1　・U3－2 [9.4.2]

4 断熱・防露改修工事

断熱材の種類 [9.5.2、3]

種　類			発泡剤の種類等	厚さ（mm）	施工箇所
打込み工法	・ビーズ法ポリステレンフォーム保温材	・	A種 G		
	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	A種 G	※25 ・	※一般部
		・保温板3種b（スキン層付き）		※25 ・	・接地部分 ・
		・			
	・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種 G		
現場発泡工法	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種1 G	難燃性を有するもの	－	※断熱材補修部分
				※15 ・	・一般部 ・

5 屋上緑化改修工事 G

植栽基盤及び材料 [9.6.1、2]

・屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の種類等　※図示　・

工法 [9.6.3]

かん水装置　・設置する（工事区分は図示による）

既存保護層の撤去　・行う

6 透水性アスファルト舗装改修工事

路床の構成及び厚さ [9.7.3]

・遮断層　厚さ（mm）　※150　・

・凍上抑制層　厚さ（mm）　※150　・

・フィルター層　厚さ（mm）　車道部　※150　・

歩道部　※ 50　・

路床安定処理

※添加材料による安定処理

添加材料の種類

・普通ポルトランドセメント

・高炉セメントB種 G

・フライアッシュセメントB種

・生石灰（　　）

・消石灰（　　）

添加量　（　　）kg/m^3（目標CBR　※5以上　・　　）

・ジオテキスタイル

単位面積質量　60g/m^{2}以上

厚さ（mm）　0.5～1.0

引張強さ　98N/5cm(10kgf/5cm)以上

透水係数　1.5×10cm/sec以上

盛土の種別　・A種　・B種　・C種　・D種

・建設汚泥から再生した処理土 G

遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層　※川砂、海砂又は良質な山砂　・

厚さは図示

・凍上抑制層　※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切込砂利　・砂

厚さは図示

発生土の処理　※構外搬出遮切処理

・構内指定場所に敷均し

・構内指定場所に堆積

・構内指定場所に処分（搬出調査等を監督職員に提出する）

路床土の支持力比（CBR）試験　※行う　・行わない

路床の締固め度試験　※行う　・行わない

砂の粒度試験　※行う　・行わない

路盤材料　・再生クラッシャラン G [9.7.4]

・クラッシャラン鉄鋼スラグ G

・

路盤厚さ（mm）　車道部　※150　・

歩道部　※100　・

路盤の締固め度試験　※行う　・行わない

舗装材料及び厚さ [9.7.5、6]

車道部　※改質アスファルトⅠ型　厚さ（mm）　※50　・

歩道部　※ストレートアスファルト　厚さ（mm）　※30　・

透水性アスファルト混合物等の抽出試験　※行う　・行わない [9.7.9]

7 PCB含有シーリング材処分

・第一次判定

現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する

採取箇所数　計　箇所

採取箇所　※図示　・

・第二次判定

専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う

分析個数　計　箇所

・除去処理工事

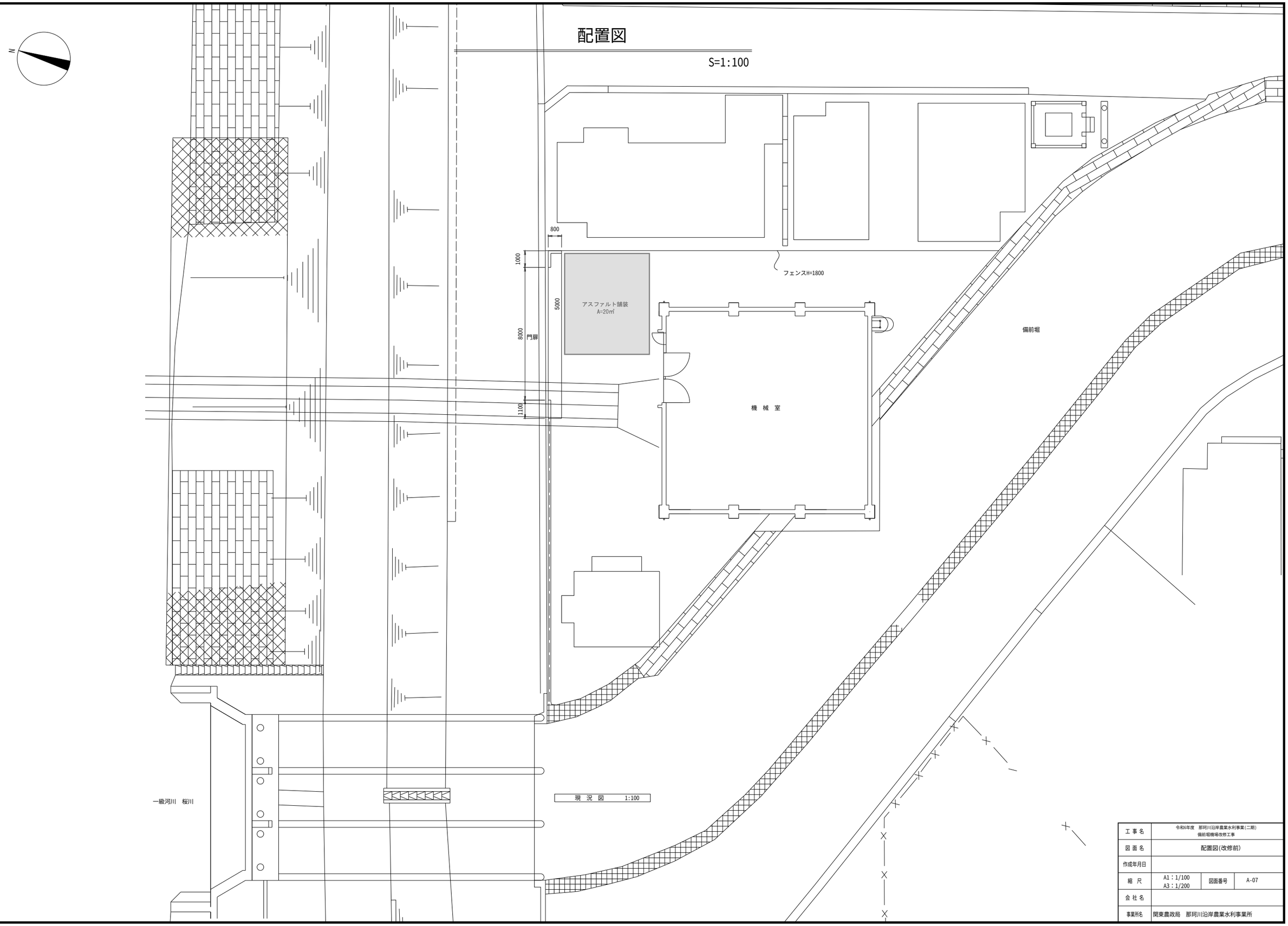
除去範囲　※図示　・

撤去方法　・「標準施工要領書」（日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング材工業会）による

工 事 名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図 面 名	改修工事特記仕様書（6）		
作成年月日			
縮　尺		図面番号	A-06
会 社 名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		

配置図

S=1:100

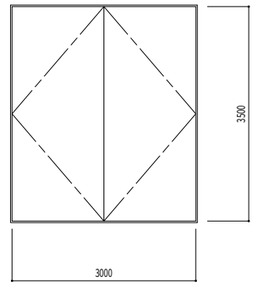
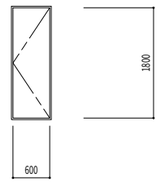


工 事 名	令和6年度 那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図 面 名	配置図(改修前)		
作成年月日			
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	図面番号	A-07
会 社 名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		

外部仕上表

部 位	現 況 ・ 撤 去	改 修	備 考
屋 根	防水モルタルt=30撤去　（下地コンクリート、シート防水（t=1.0）撤去）	既設高圧洗浄(10～15Mps)の上、下地調整　、塗膜防水　新設	モルタルにて不陸調整 立上り・天端：欠損・露筋部分、樹脂モルタルにて成形、補修 ステンレス製押え金物　新設　　A-13図参照
	立上り・天端：モルタルコテ押え　（下地、コンクリート打放し）	樹脂モルタル塗、アルミ製笠木w400（既製品）　新設	
外 壁	リシン吹付け　撤去　（下地、モルタル刷毛引）	下地調整の上、複層塗材E吹付　新設	
	柱型、リシン吹付け　撤去　（下地、コンクリート打放し）	下地調整の上、複層塗材E吹付　新設	
	リブコンクリート打放し、はつり仕上げ　GL+5,200～10,700	下地調整の上、コンクリート保護塗装　新設	
外壁（窓廻り）	コンクリート下地、モルタルコテ押え	下地調整の上、複層塗材E吹付　新設	
樋	縦樋：塩化ビニル樹脂製(VP)　φ75　　揚み金物：PL16×3 @2,000以内　撤去	縦樋：塩化ビニル樹脂製(VP)　φ75　　揚み金物：SUS製 @2,000以内　新設	
	落し口：PL1.2曲げ加工　外部コンクリート打放し		
開口部	スチール製扉　撤去	スチール製扉（防水扉）　新設	
其の他	タラップ：スチール製　撤去	タラップ：ステンレス製　新設	雑詳細図 参照
	－	横移動ステージ　新設	雑詳細図 参照

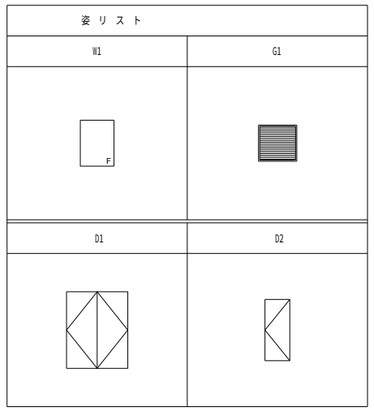
建 具 表　1:50

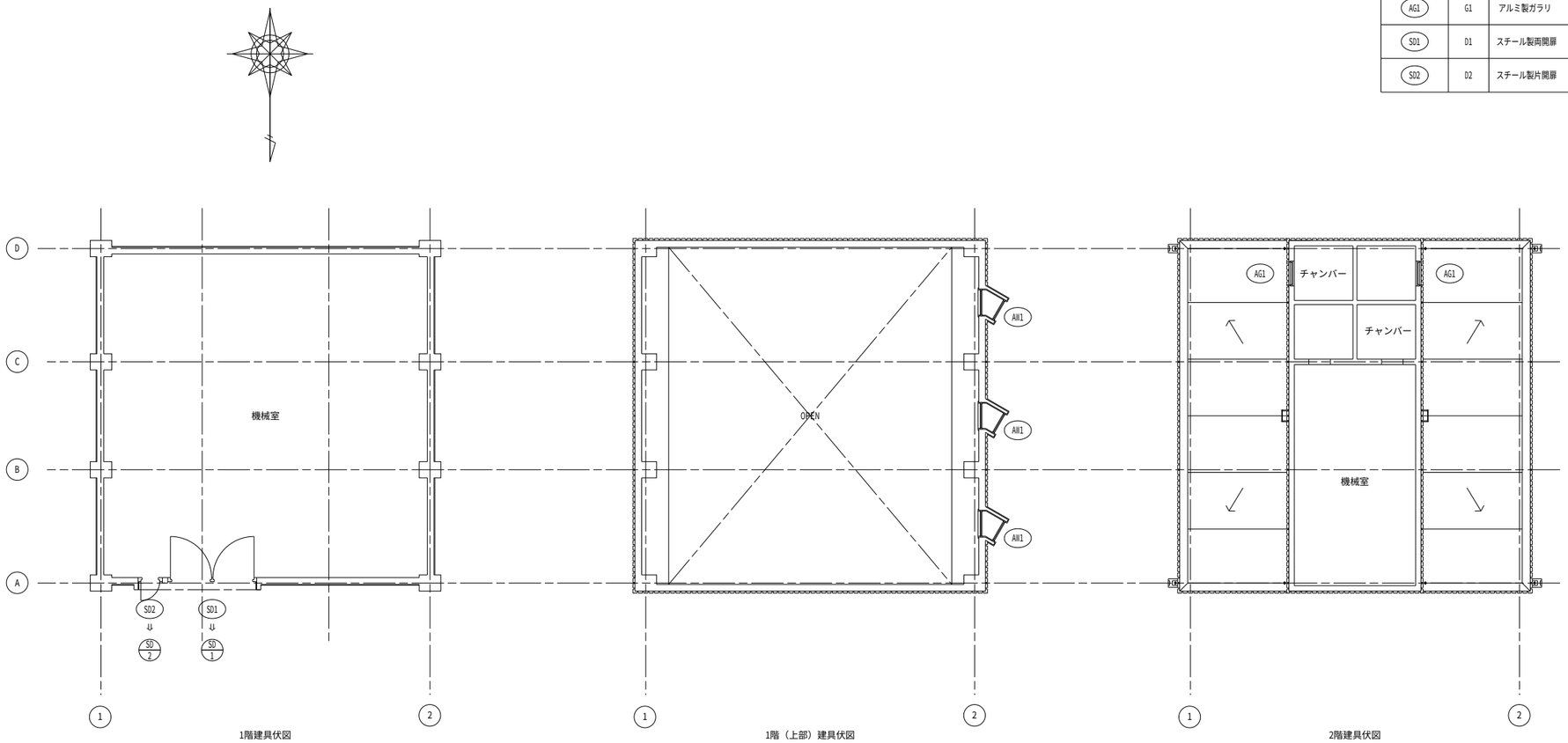
記 号	名 称	SD 1　スチール製両開扉		SD 2　スチール製片開防音扉	
姿 図					
取付場所	数 量	1階 機械室	1	1階 機械室	1
仕 上	見 込	DP塗装	120	DP塗装	100
付属金物		SUS丁番（各3カ所）、ドアクローザー グレモン装置		SUS丁番、ドアクローザー、戸当り グレモン装置	
備 考		防音扉		防音扉	

改 修 ・ 撤 去 建 具 表

記 号	姿	形 式	W	H	箇 所	改修内容
AW1	W1	アルミ製はめ殺し窓	780	1,500	3	シーリング打替え
AG1	G1	アルミ製ガラリ	800	800	2	サッシクリーニング
SD1	D1	スチール製両開扉	3,000	3,500	1	撤去
SD2	D2	スチール製片開扉	600	1,800	1	

姿 リ ス ト

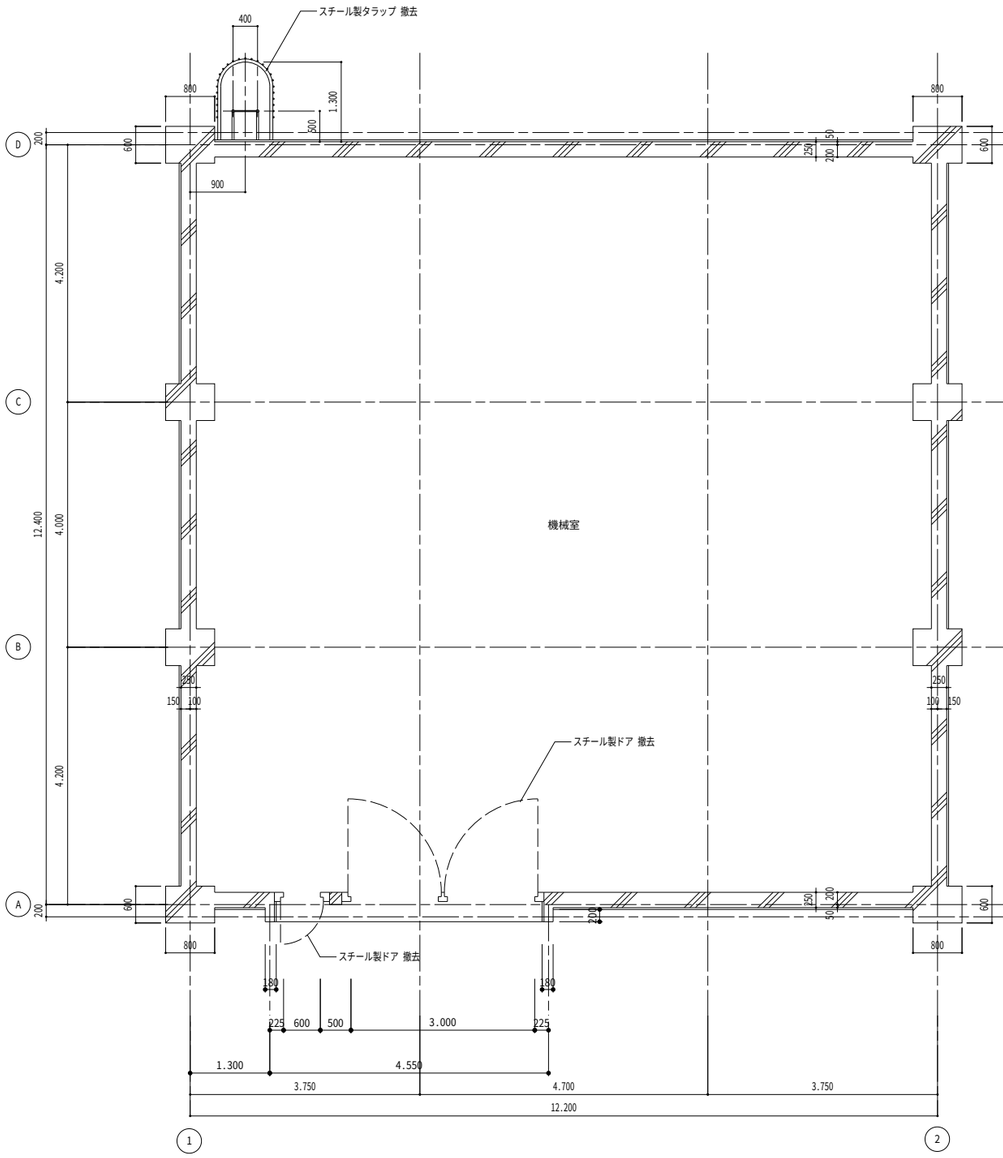




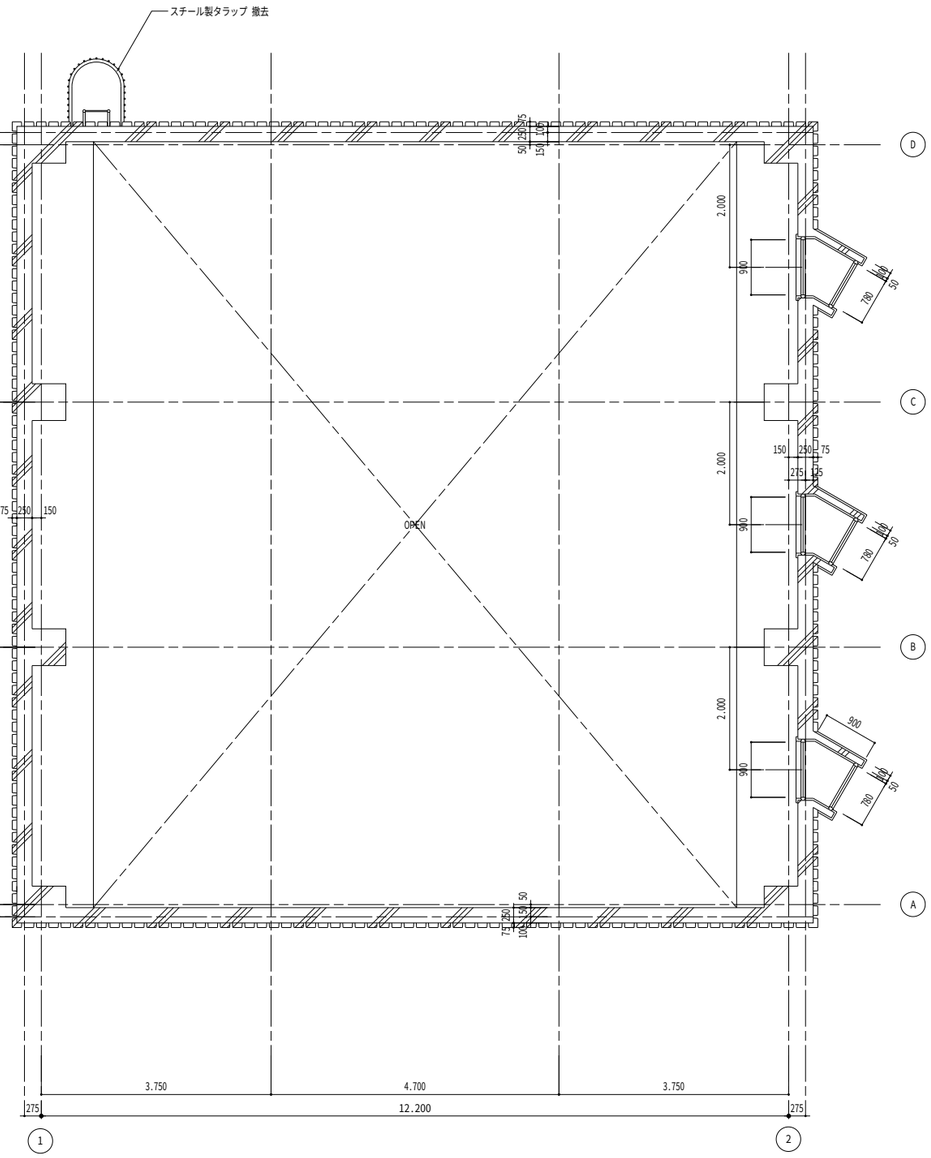
1階建具伏図　　1階（上部）建具伏図　　2階建具伏図

工 事 名	令和6年度　那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図 面 名	仕上表・建具表・建具伏図		
作成年月日			
縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	図面番号	A-08
会 社 名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		

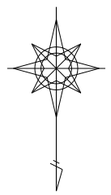
改 修 前



1階平面図 1:50



1階（上部）平面図 1:50



工 事 名	令和6年度 那珂川沿岸農業水利事業(二期) 備前堀機場改修工事		
図 面 名	平面詳細図(1) (改修前)		
作成年月日			
縮 尺	A1：1/50 A3：1/100	図面番号	A-09
会 社 名			
事業所名	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所		